

株式会社アイ・ユー・ケイ 様

不正操作の抑止と顧客への安心・安全提供をPCログ管理で実現
自社導入実績を糧に販売パートナーとしても活躍

お客様から信頼を得られるAssetView GOLD M

ご担当者様

株式会社アイ・ユー・ケイ
常務取締役 兼
ユースウェアサービス事業本部長
宮本 明氏株式会社アイ・ユー・ケイ
理事
内部監査室室長
北出 誠司氏

弊社担当営業

株式会社ハンモック
営業本部
深澤 紀彦自社開発とマルチベンダー双方で
導入・運用をトータルサポート

1971年に電子計算機による情報処理やソフトウェアの開発、販売を目的として創業されてから現在に至るまで、企業に役立つ安定的かつ安全な情報システムの構築と運用を手がけてきた株式会社アイ・ユー・ケイ。現在同社は、ユースウェア事業とマルチベンダー事業の2つを柱に展開している。

特にICT (Information and Communication Technology) インフラに関しては、企画・設計やハードウェア導入、サーバー・ネットワーク構築に加えて、サービスデスクセンターを中心とした運用サービスまでを提供するのが大きな特徴だ。2009年7月からはICTのコンサルティングサービスも新たに開始し、ICTインフラの安心と安全を実現するために充実した体制でトータルなサポート&サービスを提供している。

顧客企業、パートナー、従業員との関係において「公正・誠実」をキーワードとしている同社は、より良い体制でのサービス提供を常に強く意識している。顧客からの十分な信頼を得ること、従業員が安心して仕事のできる環境の構築することを心がけている同社では、不正操作に対する抑止だけではなく、安心・安全の提供を目的としてクライアントPCログ管理機能を持つ「AssetView GOLD M」を

導入した。その導入の背景と現在の活用方法について、常務取締役 兼 ユースウェアサービス事業本部長の宮本 明氏と、理事で内部監査室室長の北出 誠司氏にお話を伺った。

単機能を安価に導入できる
AssetView GOLD

同社は様々な企業のシステムを構築・運用するにあたって、個人情報保護マネジメントのためにプライバシーマークを取得していた。しかし、2008年末、ITホールディングスグループの一員として監査を受けた折に、個人情報保護だけでなく情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) への取り組みも必要だと指摘されたという。

「別の資産管理製品でログの取得自体はしていましたが、ISMSで求められる管理や分析はできていませんでした。そこで二重投資を避けるためにPCログ管理だけを導入したいと考え、低コストで必要な機能だけを選択できるAssetView GOLDを導入いたしました。」と北出氏は語る。

マルチベンダー事業で多くの他社製品を扱い、多彩な製品に対する十分な知識を持っていた同社ではAssetView GOLDのこともすでに知っており、単機能での平易かつ低コストで導入が可能

導入先企業データ



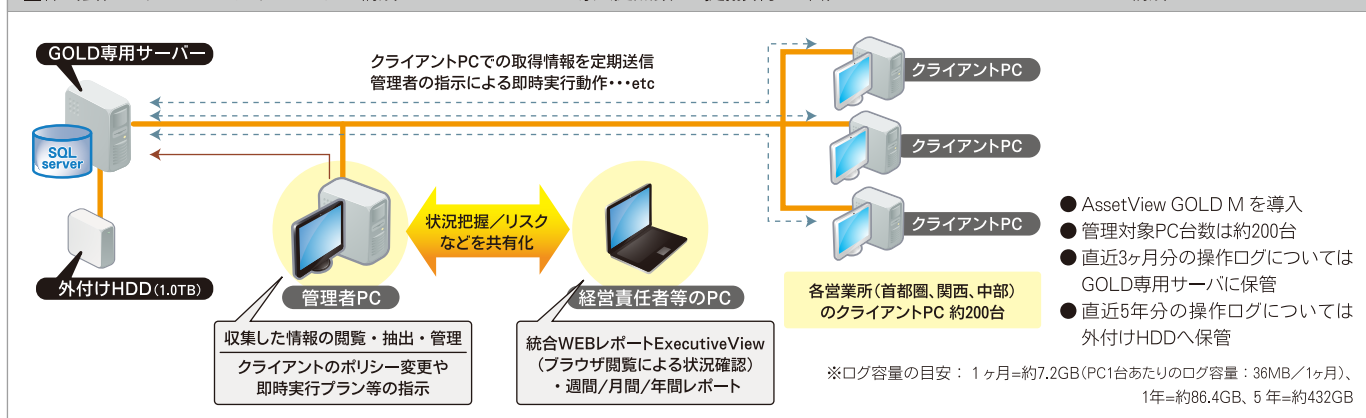
本社所在地：〒102-0072
東京都千代田区飯田橋1丁目5番10号 教販九段ビル
設立(創業)：1971年1月23日
資本金：213,950千円
従業員数：150名
URL：http://www.iukinc.co.jp



概要：
ユースウェア事業ではシステムインフラのコンサルティング、設計・導入サービス、運用サービス、アプリケーション開発サービスを提供。マルチベンダー事業では数多くのパッケージ製品の導入・運用を手がけている。

■株式会社アイ・ユー・ケイ システム構成 AssetView GOLD導入拠点数 6拠点(約200台)

構成: AssetView GOLD M



で、段階的な機能拡張にも対応できることが製品選定の決め手となった。

自社の技術者が導入を実施 販売パートナーとしても活動

PCログ管理を行う目的は、コンプライアンス対応だけでなく現場での仕事のしやすさを向上させることにもあった。「ログ管理をすることで不正操作に対する抑止効果はありますが、それ以上にお客様から何か指摘された時にすぐログを提示できること、お客様のシステムに接続して作業をした時の作業履歴を提示できることなどを重視しました。お客様の疑問に答えることが弊社の信頼につながりますし、身の潔白を証明する手段があることで仕事がしやすくなります」と宮本氏。

また、マルチベンダー事業においてAssetView GOLDを取り扱うにあたり、自社で実際に導入・運用してみることで十分な知識と実感を持った上で営業できるようになるという目論見もあったという。その準備として、導入にあたってはハンモックの技術者からの支援を受け、自社の技術者が作業を担当した。「ネットワーク配布で簡単に導入できることになっていても、実際の企業システムに接続しているPC環境は多種多様です。中にはスムーズに導入できない機器もありました。どういう時に問題があるのか、それにどう対応すれば良いのかを実地で学ぶことができたのは良い経験だと感じています」と宮本氏は語る。

同社はマルチベンダー事業において他社製品を扱う場合にも、導入して終了というビジネスは決して行っていない。導入前のコンサルティング

から、導入後の運用サポートまでを充実させたワンストップサービスで提供することを信条としている。AssetView GOLDの販売を手がけるにあたって当然その姿勢は守られる。「実際に導入した経験やトレースの仕組み作りの経験など、自社で使った結果がソリューションに活きます」と宮本氏。すでに同社ではAssetView GOLDの販売活動を開始している。

取得ログ内容確認など 活用方法を研究

導入から1ヶ月半という現段階では、まだ検討中の運用方法も多いという。「現在200クライアントで利用しており、社内のPCすべてに導入済みです。しかしテスト用に基幹ネットワークと切り離して構築されているシステムのログや、持ち出し用PCのログ管理をどうするのかは課題となっています。その解決策としてネットワーク経由でアップロードするのではなく、ローカル保存したログデータをメディア経由で取り込むなどの運用を考えています。たとえば客先で使用したPCに誤って客先データが残っていないか、というようなこともきちんと管理できればより安心です」と宮本氏は語る。その他にもログの詳細な使い方も研究中だという。「自分の操作ログを確認して、この操作はこう出力される、この動作は出力されない、というように研究しています。有事に備えてのログ管理ですが、いざ使う時にどこをどう見れば良いのかを知っておかなければなりませんからね」

また 今後はその時々 の 要求 に 合わせて AssetView GOLDシリーズの別機能を導入す

る可能性もありそうだ。必要な時に必要なだけの機能が拡張できるAssetView GOLDの特徴を踏まえた導入を検討している。

ベンダーと企業の双方で 安全・安心を担保するために活用

今後のAssetView GOLD Mの活用方法として、エンドユーザーでありながら販売パートナーでもある同社には独自の展望がある。今回の導入はこれから顧客企業にアセット管理サービスを提供するための準備行動でもあるというのだ。「アセット管理サービスを提供するにあたり、その前提条件として弊社側はもちろん、お客様側にもAssetView GOLD Mを導入していただき、双方でログをきちんと管理していることを考えています。何かの作業を行う時には問題発生の可能性を考慮して行動すべきですし、責任の所在も明確にしなくてはなりません。現在はベンダーとユーザー企業の双方がオープンに、安心・安全を保有しなければならない時代になってきていると感じています」と北出氏。

AssetView GOLD Mを自社でのPCログ管理に十分活用しながら、顧客企業へのソリューション販売とサービス提供にあたっての必須条件として組み込みたいと語っていた。